



Future Report 2023

2023.01.01 - 2023.12.31

フューチャー株式会社 TSE PRIME SECTION:4722



ごあいさつ

先進テクノロジーの実装とあらゆる分野におけるノウハウの活用で ビジネスや社会における未来価値創出と持続的成長に貢献する

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

フューチャーは、経営戦略とIT戦略の両輪でデザインするという理念のもと、多種多様な業種・業界のお客様の未来価値を最大化させることをミッションとしています。戦略的ITをお客様に提供する「ITコンサルティング&サービス事業」と、培ってきたノウハウをアントレプレナーシップで実践する「ビジネスイノベーション事業」のシナジーにより、時代に適応した新しい付加価値を提供し変革を支援することで、グループ全体の事業拡大と自らの未来価値の向上を図っています。

私たちを取り巻く経済環境や社会環境は劇的に変化し続け、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進、AIやIoTの活用による省力化、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進などといった新たな課題を解決するための取組みが求められています。そのためには、先進的なテクノロジーとあらゆる分野で培われたノウハウの活用によって、新しい時代に適した価値の創出に挑戦し続けることが重要です。

急速にデジタル化が進みビジネスや社会の根幹にITが不可欠な今、フューチャーはあらゆる事象から発生するデータをもとに、微細な変化も可視化するリアルタイムアーキテクチャによって、企業や社会のDXを推進しています。これからも真の改革を支援するとともに、お客様のビジネスや社会の持続的な成長と発展に貢献してまいります。



フューチャー株式会社
代表取締役会長 兼 社長 グループCEO

金丸恭文

2024年3月

当グループの現状及び今後の戦略について

2023年12月期の事業概況

2023年12月期のハイライト

01

連結売上高は
前期比10.4%増の
593億円

02

連結営業利益は
前期比12.1%増の
137億円

2023年12月期の連結業績は、売上高59,324百万円(前期比10.4%増)、営業利益13,700百万円(同12.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益9,221百万円(同0.2%減)となりました。

当期は、不安定な世界情勢やインフレーション、海外金利上昇の中でも、企業のDXや業務改革、新たなデジタルサービスの創出、ESG・SDGs関連の取組みなど、ITを通じた投資や改革が旺盛に進められました。また、個人においてもECサイトでの購買、動画やオンラインによるスポーツ観戦など、ITの利用が定着するとともに関連のサービスが生まれました。

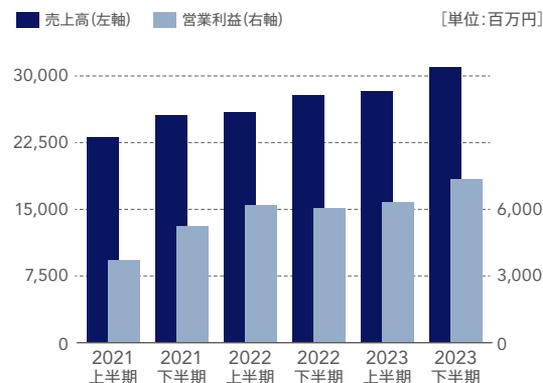
当社においては、ITコンサルティング&サービス事業は、次世代バンキングシステムなどの大型プロジェクトが順調に進行したことなどにより、増収・増益となりました。また、ビジネスイノベーション事業は、YOCABITOの業務改革による粗利率の回復と、キュリオシティの新規連結により利益が改善しました。

株主還元策

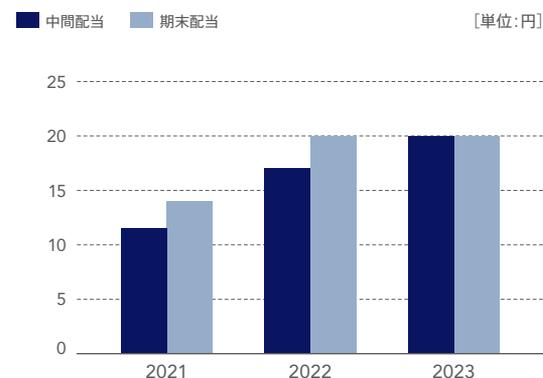
株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置づけ、持続的な成長を図るための内部留保資金を確保しつつ、期間損益、キャッシュ・フローの状況、自己株式の買付状況等を総合的に勘案して、連結業績における配当性向35%以上を目安に株主還元を実施しています。

この方針に基づき、2023年12月期の期末配当金については、1株当たり20円、年間配当金は40円といたしました。また、次期の配当金は1株当たり年間42円(うち中間配当21円)を予定しています。

[連結] 半期別業績推移



1株当たり配当金



※2022年1月1日を効力発生日として1株につき2株の割合で株式分割を実施しています。2021年の年間配当額は当該株式分割の影響を考慮して記載していません。

Future Topics

フューチャートピックス

▶ フューチャーの人材・技術・知財の総合力で、お客様の未来価値を最大化

フューチャーは「お客様の未来価値の最大化」をミッションとし、物流業界、金融業界、メディア業界、生活インフラ業界、アパレル業界など広く様々な分野のお客様に付加価値を提供してきました。

当社の特長は、経営戦略とIT戦略を一体で捉えた業務・システムのデザインにより、お客様の改革の推進を支援することです。世界中の最先端テクノロジーから最適なものを選択して組み合わせ、業務とインフラに同時に実装できることが当社の強みです。また、既存の仕組みを分解し、疎結合の思想でシステム刷新を行うため、段階別の移行やシームレスな連携ができることも当社のプロジェクトの特長であり、科学的な品質管理手法のブラッシュアップや管理体制の強化によってさらなる品質向上を追求し続けています。

新たな取組みとしては、お客様ごとに戦略システムを構築するのではなく、当社の知財やノウハウをもとに開発したオリジナルのソフトウェアをお客様に長期にわたって利用していただくという、サービス提供型のビジネスモデルへの移行も始めています。

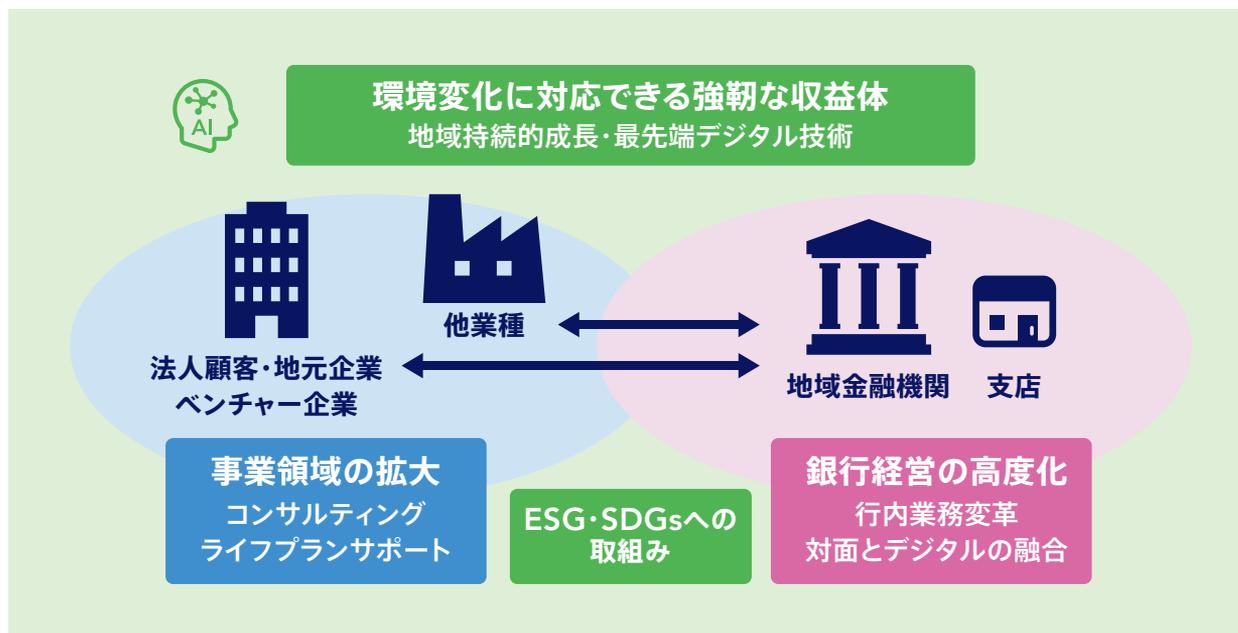
ITコンサルティング & サービス



▶ 地域金融機関のDX推進と地域創生への貢献を支援

福島銀行様、島根銀行様での「次世代バンキングシステム」の稼働に向け、プロジェクトは順調に進行しています。福島銀行様では、新たな法令や制度への対応に必要な追加開発がありましたが、スケジュールを延長することなく完了しており、2024年下期の本稼働に向けて総合テストを進行しています。また、島根銀行様においても順調に開発を進めています。

当社は、「次世代バンキングシステム」や「FutureBANK」といったバンキングソリューションの提供を通じて、その地域のコアとなる金融機関がDXを推進できるよう支援しています。また、地域の金融機関があらゆる業種の地元企業を対象に真のDXコンサルティングを行い地域創生に貢献していけるよう支援していきます。



Future Topics

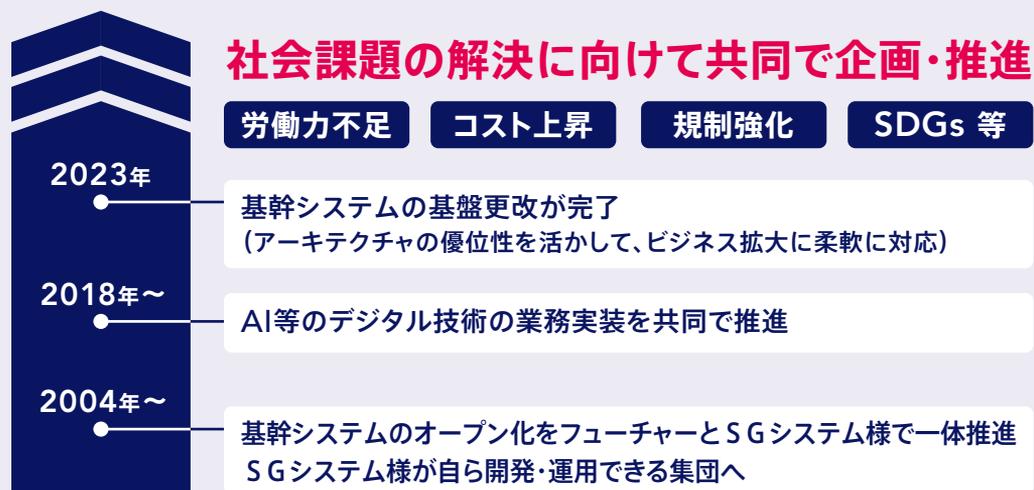
フューチャートピックス

▶ 物流業界のDX推進と課題解決を支援

フューチャーは、S Gホールディングス様の戦略パートナーとして、2004年より物流課題の解決にとともに取り組んできました。2004年に基幹システムのオープン化をスタートし、S Gシステム様が自ら開発や運用を行える集団となるべく共同で変革を推進しました。

AI等のデジタル技術の業務実装についても2018年という早い段階から共同で推進しており、AIを使って伝票情報をフルデジタル化することで、荷積みの効率化や配送ルートの最適化など、ドライバー業務の改善につなげています。また、不在再配達回数の削減に向けて、LINEから再配達依頼や受取先変更が行える受取人向けの機能などを拡充しました。さらには、佐川急便様が提供するチャーターサービスの共同開発や、グローバルビジネス展開の支援など、宅配以外のビジネス拡大にも貢献しています。

今後もアーキテクチャの優位性を活かし、戦略パートナーとしてビジネスの拡大を支援していきます。

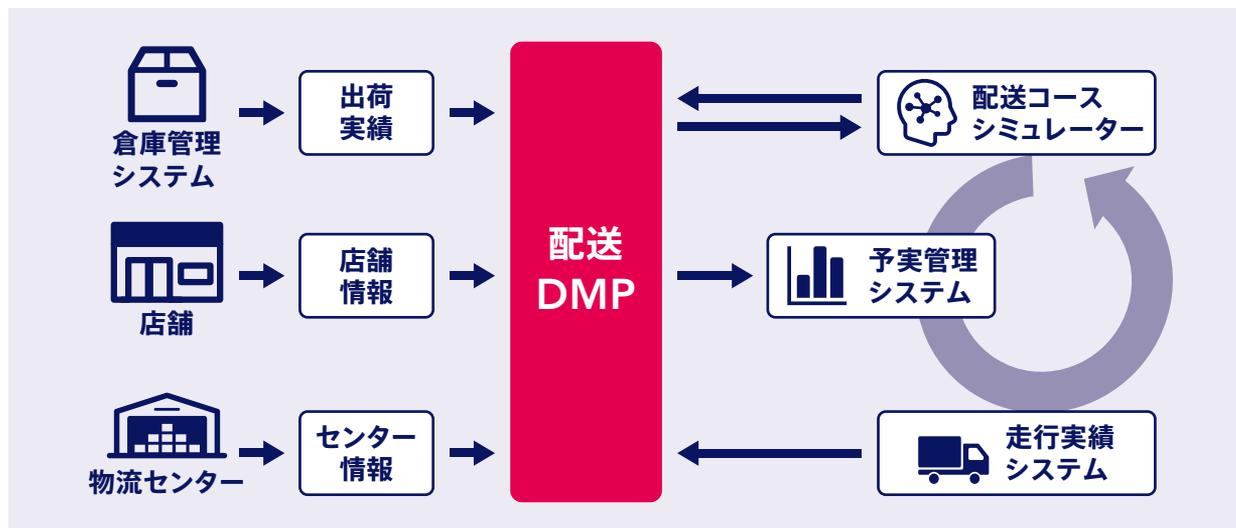


▶ 全国に16,000店以上を展開するファミリーマート様の「配送DMP」を構築

フューチャーは、2021年よりファミリーマート様のIT戦略パートナーとして、ITガバナンス、システム品質強化、サプライチェーン改革に向けた「配送DMP (Data Management Platform)」の構築、AIなどのテクノロジーを活用した業務の効率化・高度化を支援しています。今回構築した「配送DMP」は、店舗への商品配送の最適化を実現するためのデータプラットフォームであり、ドライバーの業務効率改善や配送コースの最適化によるトラック台数の削減、物流コスト削減への貢献が期待されています。

コンビニでは、「低温」「常温」「冷凍」によって配送条件が異なる商品を、販売ピークの時間帯に合わせて効率的に店舗へ届ける必要があります。「配送DMP」は、ファミリーマート様と物流事業者が従来は個別に管理していた情報を一元管理し、物流倉庫から店舗への配送を最適化します。また、「配送DMP」に蓄積したデータに交通情報などの外部データを連携させることで配送コースのシミュレーションも可能になり、トラック台数の最適化による環境負荷及びドライバー負荷の軽減、物流コストの削減など、「2024年問題」に向けた対策にも寄与します。

FamilyMart



▶ アパレル業界の変革とDX推進に向けて「FutureApparel」を構築

フューチャーは、数多くの大手アパレル企業におけるシステム刷新を通じて、アパレル業界の変革と成長に貢献してきました。2015年に提供を開始した「OmnibusCore」は、商品情報と在庫情報の一元管理によりオムニチャンネル戦略の実現を支援するソリューションで、400ブランド以上に導入した実績があります。さらに2023年には、業界特有の基幹領域を包括したプラットフォーム「FutureApparel」の提供を開始しました。

商品数が多いうえに、サイズやカラーの展開が多く、生産や在庫のコントロールが難しいアパレルビジネスにおいては、定価で商品売り、最終的には廃棄を減らすことが重要です。その実現のための機能を備えた「FutureApparel」は好評を得ており、アーバンリサーチ様においては、「FutureApparel」と「OmnibusCore」を導入するプロジェクトが本格的にスタートしています。



▶ 生成AIへの積極投資で自社・お客様・業界の変革を推進

フューチャーは、これまでもAIを活用したお客様の業務改革を支援してきましたが、2022年の生成AI登場以来、抜本的な強化に注力しています。具体的には、自然言語処理などAIに関する専門人材の獲得や、AIの学習に必要なGPU (Graphics Processing Unit) インフラへの積極投資により産学連携を深めることで、生成AIの開発を加速し、応用範囲の拡大を進めています。

さらには、生成AIへの積極投資を通じて、自社のみならずお客様や業界の変革を推進しています。自社変革においては、設計開発プロセスに生成AIを導入することによりシステム開発の生産性と品質の向上を図るだけでなく、「FutureBank」「FutureApparel」などのソリューションと生成AIの融合により、これまでにない付加価値を創出し競争優位性を高めていきます。また、汎用的なAIモデルではなく、お客様に特化したLLM (Large Language Models: 大規模言語モデル) を活用したコンサルティングにより、お客様と業界の変革に貢献していきます。

特集

株式会社リヴァンプとの経営統合を合意

お客様の未来価値のさらなる向上に向け、ITコンサルティング & サービス事業を強化

フューチャーは、お客様の未来価値のさらなる向上のためグループ全体としての課題解決力をより一層高めるとともに、グループの成長を加速させることを目的に、2024年1月24日付で株式会社リヴァンプ（以下リヴァンプ）と経営統合に向けた合意書を締結しました。

フューチャーは、お客様の経営戦略とIT戦略を両輪としてデザインし、「お客様の未来価値を最大化させること」をミッションとしています。また、リヴァンプは、「企業を芯から元気にする」という経営理念のもと、経営支援やDX及び投資といった主要な事業を通じて支援先企業の中長期的な成長の実現に貢献しています。

加速するDXへの対応に加え、生産年齢人口の減少、ESGやSDGsなどの経済的かつ社会的な課題の解決に企業として向き合うために、フューチャーに対するお客様の期待はこれまで以上に高まっています。今回、リヴァンプがグループに加わることで、お客様と一体となって経営改革を実現してきた同社が持つノウハウと、先端テクノロジーを駆使して経営戦略とビジネスプロセスをデザインし実装するフューチャーのノウハウを融合できます。これにより、グループ全体としての課題解決力をさらに向上させ、成長を加速させていきます。

株式会社リヴァンプとの経営統合について

- 流通分野を中心とした顧客基盤の拡大、両社連携営業の推進
- 経営支援やテクノロジーの相互補完
- 採用・教育の一元化、共通化
- 事業再生、事業承継支援

両者でシナジー推進のための
戦略委員会をつくり、
早期にシナジー効果創出

フューチャーの業績・財務状況

▶ 連結貸借対照表 —決算のポイント—

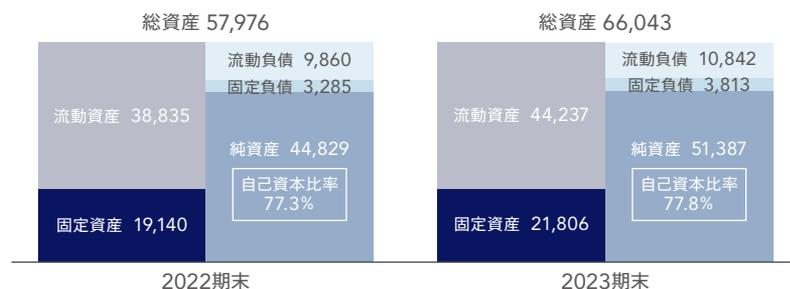
- ▶ 総資産は、現金及び預金、その他流動資産の増加等により、前期末比8,067百万円増加
- ▶ 負債は、その他流動負債、繰延税金負債の増加等により、前期末比1,509百万円増加
- ▶ 純資産は、利益剰余金の増加等により、前期末比6,557百万円増加

[単位:百万円]

	前連結会計年度末 2022年12月31日現在	当連結会計年度末 2023年12月31日現在
流動資産	38,835	44,237
固定資産	19,140	21,806
流動負債	9,860	10,842
固定負債	3,285	3,813
純資産	44,829	51,387
総資産	57,976	66,043

総資産の推移

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。
 ※2023年12月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、
 2022年12月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

▶ 連結損益計算書 —決算のポイント—

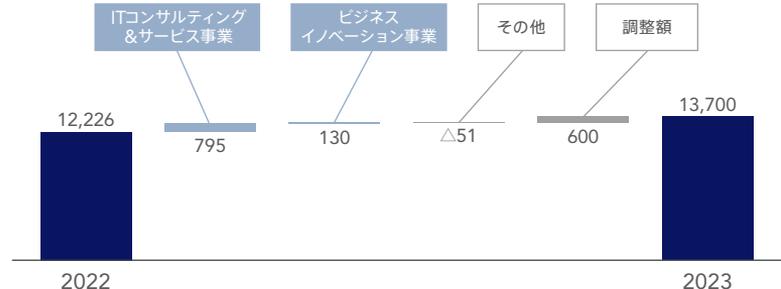
- ▶ ITコンサルティング&サービス事業及び、ビジネスイノベーション事業は増収・増益となり、全体の売上高、営業利益は増加したものの、親会社株主に帰属する当期純利益は微減

[単位:百万円]

	前連結会計年度 自2022年 1月 1日 至2022年12月31日	当連結会計年度 自2023年 1月 1日 至2023年12月31日
売上高	53,738	59,324
売上総利益	26,655	28,807
販売費及び一般管理費	14,428	15,106
営業利益	12,226	13,700
経常利益	12,571	14,087
親会社株主に帰属する当期純利益	9,239	9,221

営業利益の増減要因

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。
 ※2023年12月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、
 2022年12月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

▶ 連結キャッシュ・フロー計算書 -決算のポイント-

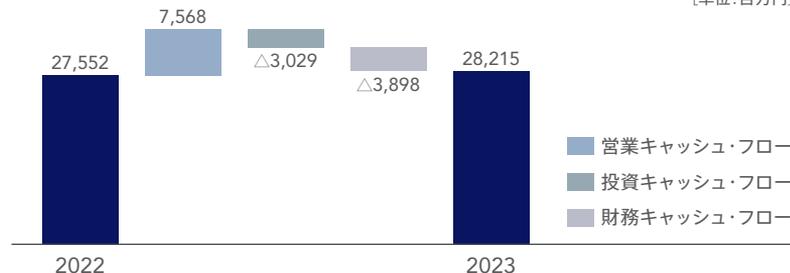
- ▶ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上等により、7,568百万円の収入
- ▶ 投資活動によるキャッシュ・フローは、無形固定資産の取得による支出等により、3,029百万円の支出

[単位:百万円]

	前連結会計年度 自2022年 1月 1日 至2022年12月31日	当連結会計年度 自2023年 1月 1日 至2023年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,174	7,568
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,009	△3,029
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,017	△3,898
現金及び現金同等物に係る換算差額	△26	22
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	6,121	663
現金及び現金同等物の期首残高	21,430	27,552
現金及び現金同等物の期末残高	27,552	28,215

キャッシュ・フローの推移

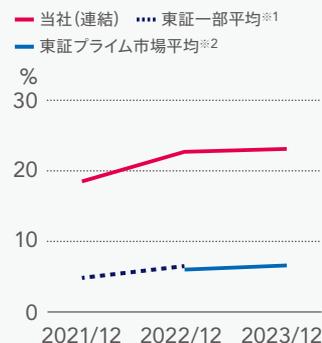
[単位:百万円]



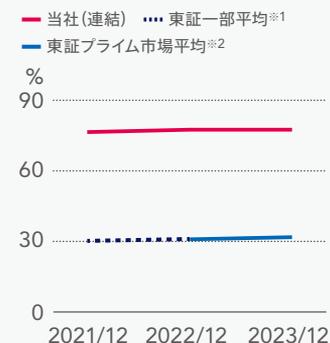
※現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

▶ フューチャーの投資指標

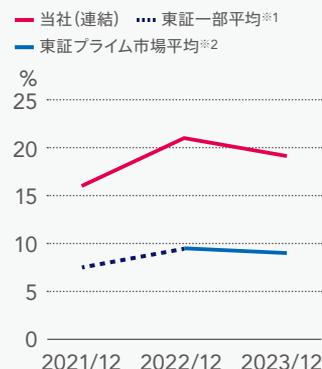
売上高営業利益率



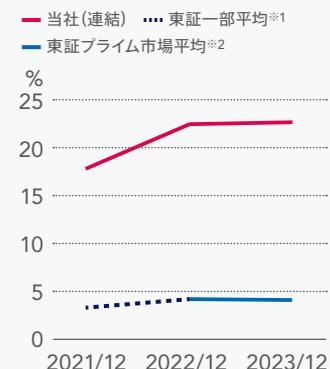
自己資本比率



自己資本当期純利益率 (ROE)



総資産経常利益率 (ROA)



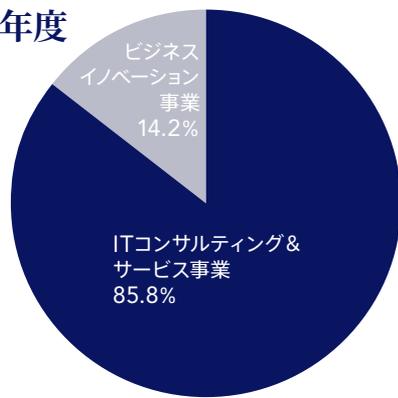
※1 2021年3月期、2022年3月期決算短信(非連結を含む)を発表した東証一部上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。

※2 2022年3月期、2023年3月期決算短信(非連結を含む)を発表した東証プライム市場上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。

(出典:東京証券取引所統計資料)

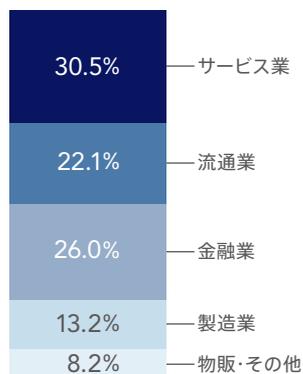
フューチャーのセグメント別業績・戦略

▶ セグメント別売上高構成比 2023年度

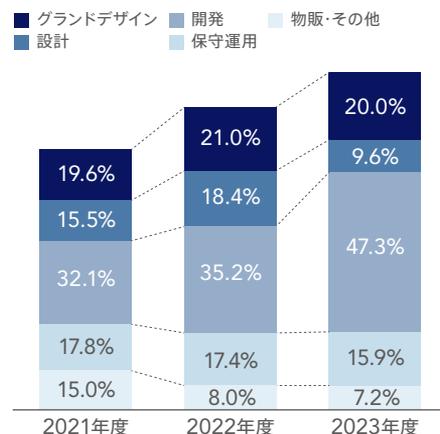


ITコンサルティング&サービス事業における業種別売上高構成比※1

2023年度



ITコンサルティング&サービス事業におけるフェーズ別売上高構成比推移※2,3



※1 物販・その他はIT機材の選定・調達・販売のほか、ライセンス販売、官公庁・地方公共団体等への売上高となります。

※2 物販・その他はIT機材の選定・調達・販売のほか、ライセンス販売による売上高等となります。

※3 2021年度の数値は収益認識基準適用前の数値となります。

▶ 2023 レビュー

ITコンサルティング&サービス事業

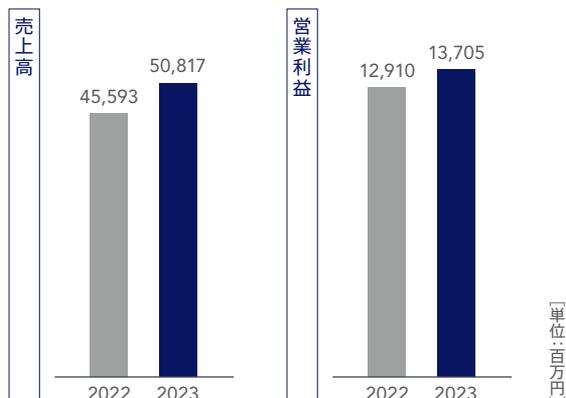
- ▶ フューチャーアーキテクトは、物流業界やアパレル業界をはじめ多くのお客様のDX支援が順調に進行したほか、中長期的な成長に資する「次世代バンキングシステム」導入プロジェクト等の大型案件が順調に進行し、増収・増益となりました。
- ▶ フューチャーインスペースは、定常的な保守運用サービスに加え、既存のお客様のシステム基盤更改やクラウド移行などが好調に推移し、増収・増益となりました。
- ▶ FutureOneは、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の鉄鋼業界向け受注などが拡大するも、中小企業のIT投資が鈍化した影響で減収・減益となりました。
- ▶ ワイ・ディ・シーは、システムインテグレーション案件の新規獲得、既存顧客の深耕に加え、戦略立案フェーズからの受注が増加し、増収・増益となりました。
- ▶ ディアイティは、サイバーセキュリティ関連の売上は増加したものの、受注が想定を下回ったことや、採用コストの増加などから増収・減益となりました。

ビジネスイノベーション事業

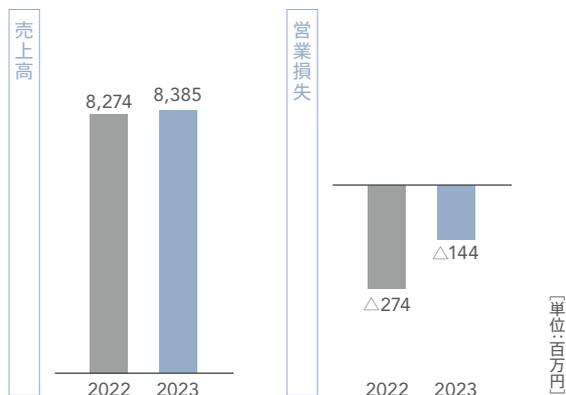
- ▶ YOCABITOは、デジタルプラットフォームによる単品管理と戦略売価設定により粗利率は回復しましたが、暖冬の影響による秋冬アパレルの販売不振等により、減収、前期に続き赤字となりました。
- ▶ 東京カレンダーは、広告売上の回復や「東カレデート」等のネットサービス収入が堅調に推移するも、新サービス「グルカレ」の展開費用などにより、増収・減益となりました。
- ▶ コードキャンプは、法人研修事業が伸長したほか、業務効率化によるコスト抑制により、増収・増益となりました。
- ▶ ライブリッツは、スポーツチーム向けの会員管理・ECパッケージ「FastBiz」を複数のプロ野球チームに導入したことから増収・増益となりました。
- ▶ 新規連結のキュリオシティは、ラグジュアリーブランドの海外におけるストアデザインが順調で、連結ベースで利益に寄与しました。

▶ 2023 実績

ITコンサルティング&サービス事業



ビジネスイノベーション事業



▶ 今後の見通し

ITコンサルティング&サービス事業

- ▶ フューチャーアーキテクトは、経営改革やDXを推進する多様なお客様から獲得した案件の確実な進行を図ります。また、地域金融機関向け「次世代バンキングシステム」をはじめ、メディア業界、アパレル業界、物流業界などにおける長年の課題解決に貢献するITソリューションの提供など、中長期的な成長につながる取組みを強化します。
- ▶ フューチャーインスペースは、大型プロジェクトの安定的な推進に向けて、開発品質のさらなる向上と人材の採用・育成に取り組めます。
- ▶ FutureOneは、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の業界特化型の営業展開による受注拡大を図ります。
- ▶ ワイ・ディ・シーは、製造業へのスマートファクトリー化の提案に注力し、新規顧客及び既存顧客への提案を強化するとともに、物流領域における新規案件獲得とESG領域での貢献により収益の拡大を目指します。
- ▶ ディアイティは、ゼロトラストを実現するセキュリティライフサイクルを提供するため、人材の採用・育成とともに子会社のサイバー・ソリューションとの連携を強化します。

ビジネスイノベーション事業

- ▶ YOCABITOは、デジタルプラットフォームの活用によるデータ分析精度の向上、データドリブンによる業務効率化などにより収益回復に努めます。
- ▶ 東京カレンダーは、デジタルプロモーションの強化により、集客力とユーザーエンゲージメントを高めていきます。また、月刊誌、WEBメディア、「東カレデート」「グルカレ」などのサービスをシームレスに連携させ、さらなる成長を図ります。
- ▶ コードキャンプは、企業や自治体向けDX人材育成やリスティング等の市場ニーズに合わせたサービスを強化します。個人向けには個人の学習ニーズの把握に努め、必要なコース開発に注力します。
- ▶ ライブリッツは、「Future Fastball」の開発技術を活用してesports向けデータ分析システムを構築し、世界に通用するプロesportsチームを作り上げ、その事業で得た技術やノウハウを活用して顧客ビジネスのさらなる拡大に貢献します。
- ▶ キュリオシティは、高級ホテルやハイエンドレジデンスのインテリアデザインに加え、世界的ブランドのストアデザインの受注を目指します。

会社概要(2023年12月31日現在)

会社名	フューチャー株式会社
英文社名	Future Corporation
設立	1989年11月28日
資本金	40億円
従業員数	2,948名(連結)

役員(2024年3月27日現在)

代表取締役会長 兼 社長	金丸 恭文
取締役副社長	石橋 国人
取締役	神宮 由紀
取締役	谷口 友彦
取締役CTO	齋藤 洋平
取締役	山岡 浩巳
取締役(常勤監査等委員)	市原 令之
取締役(監査等委員)	川本 明
取締役(監査等委員)	榊原 美紀
取締役(監査等委員)	西浦 由希子
取締役(監査等委員)	竹内 明日香

主要な連結子会社の状況(2023年12月31日現在)

■フューチャーアーキテクト株式会社	
■フューチャーインスペース株式会社	
■株式会社ワイ・ディ・シー	
■FutureOne株式会社	
■株式会社ディアイティ	
■イノベーション・ラボラトリ株式会社	
■株式会社YOCABITO	
■東京カレンダー株式会社	
■コードキャンプ株式会社	
■ライブリッツ株式会社	
■株式会社キュリオシティ	
■フューチャーインベストメント株式会社	
	他8社

主な事業所(2023年12月31日現在)

本社	〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー TEL : 03-5740-5721 FAX : 03-5740-5820
名古屋オフィス	愛知県名古屋市中区
大阪オフィス	大阪府大阪市中央区
福岡オフィス	福岡県福岡市博多区
鹿児島オフィス	鹿児島県鹿児島市

株式の状況 (2023年12月31日現在)

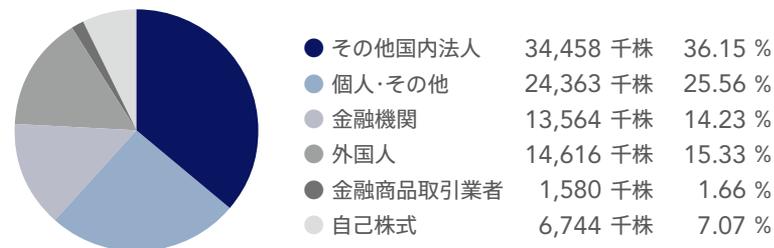
発行可能株式総数 378,752,000株
 発行済株式の総数 95,328,000株
 株主数 6,743名

大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
合同会社キーウェスト・ネットワーク	30,187	34.0
金丸 恭文	11,117	12.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,871	7.7
S Gホールディングス株式会社	4,000	4.5
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	3,676	4.1
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,780	2.0
石橋 国人	1,236	1.3
フューチャー従業員持株会	1,182	1.3
モリヤマ ヒロシ	1,164	1.3
JP MORGAN CHASE BANK 385632	837	0.9

※1 当社は、自己株式を6,744千株保有していますが、上記大株主からは除外しています。
 ※2 持株比率は自己株式(6,744千株)を控除して計算しています。

株式の所有者別状況



ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にでもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主メモ

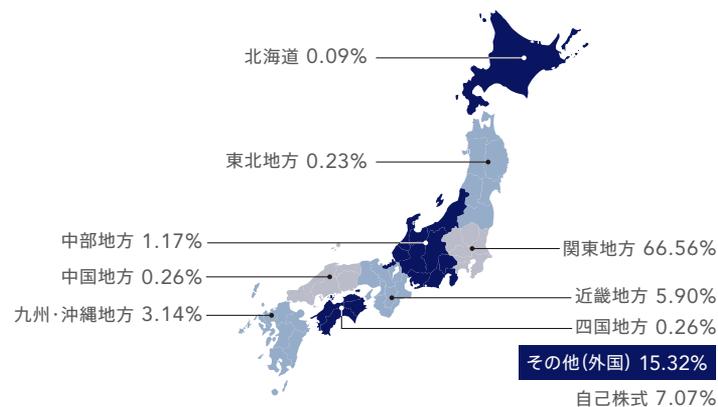
決算期 12月31日 期末配当基準日 12月31日
 定時株主総会 3月 中間配当基準日 6月30日

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 (連絡先・照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 フリーダイヤル:0120-782-031
 ホームページ:

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

公告掲載URL https://www.future.co.jp/investor_relations/notice/
 ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

株式の所在地別状況



注意事項

本レポートには、現時点における情報に基づいた将来にかかわる予測が含まれております。それらは今後の日本経済やITサービス業界の動向などにより、変動する可能性があります。従って、当社がその確実性を保証または約束するものではないことも予めご承知おきください。

Future Report 2023

フューチャー株式会社

本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2

<https://www.future.co.jp>

表紙写真: ジークスター東京

「ジークスター東京」は、フューチャーグループのジークスタースポーツエンターテインメント株式会社が運営・マネジメントする日本ハンドボールリーグ所属チームです。